

小川 慎一
OGAWA Shinichi

■ 専門分野

経営学分野・企業と社会

■ 指導可能な研究テーマ

- ・ 日本的雇用慣行に関する定性的（質的）研究
- ・ 日本的生産システムに関する定性的（質的）研究
- ・ 雇用・労働に関する定性的（質的）研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

【2025 年度】

女性のキャリアと働き方に関する研究——海上保安庁職員の働き方や就業意識に着目して

【2019 年度】

日本企業における女性のキャリア形成と管理職昇進

【2018 年度】

日本企業における非正社員から正社員への移行——正社員転換制度を中心に

【2015 年度】

中国における小集団活動——人事労務管理からの視点を中心に

【2014 年度】

ワーク・ライフ・バランスの視点からみた女性研究者のキャリア継続——子育てと仕事の狭間にいる理系の女性研究者を中心に

【2011 年度】

トラック輸送産業の労働——下請構造における位置

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

(1)以下 6 点は独学用の教科書です。研究の世界におけるルールとなりますが、教科書はとくに必要のないかぎり、研究計画書や修士論文、投稿論文の参考文献として挙示しないでください。

[1]小川慎一、2017、「産業と雇用の社会学」（松野弘（編著）、『現代社会論——社会的課題の分析と解決の方策』、ミネルヴァ書房、53-70 頁）。

[2]小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充、2015、『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』、有斐閣。

[3]佐藤博樹・佐藤厚（編）、2012、『仕事の社会学——変貌する働き方』（改訂版）、有

斐閣.

[4]佐藤博樹・藤村博之・八代充史, 2019, 『新しい人事労務管理』（第6版）, 有斐閣.

[5]梅崎修・池田心豪・藤本真（編著）, 2019, 『労働・職場調査ガイドブック——多様な手法で探索する働く人たちの世界』, 中央経済社.

[6]上林千恵子（編著）, 2026, 『よくわかる産業社会学』（第2版）, ミネルヴァ書房.

(2)ご自身の研究テーマとは異なるとしても、指導教員がどのような研究をおこなってきたのかについて、理解しておくことが欠かせません。以下が小川の研究書（単著）です。小川慎一, 2020, 『日本的経営としての小集団活動——QCサークルの形成・普及・変容』, 学文社.

(3)ご自身の研究テーマによって、その他の必読文献は異なります。

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

ご自身の研究テーマによって異なりますが、下記の科目は履修してください。

【経営学専攻博士課程前期開講科目】

企業と社会特論

人的資源管理特論

組織マネジメント特論

定性研究法特論

【経営学部開講科目】 *基礎的知識が少ない場合

雇用社会論

産業社会論

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

Quality Initiatives (QIs) Institutionalization in Malaysia: Comparative Study between Japanese and Malaysian Manufacturing Companies (2022年9月)

■ その他

小川は定性的（質的）研究を専門としています。修士論文では定性的（質的）研究に取り組んでいただきます。ただし、定量的（計量的）分析を含む文献を読める程度に、統計的分析について初歩的な知識のあることが望ましいです。